



271号
2022/3

日中文化交流市民サークル'わんりい'
町田市三輪緑山 2-18-19 寺西方
〒195-0055 ☎ : 044-986-4195
<http://wanli-san.com/>
Eメール:t_taizan@yahoo.co.jp



静安寺門前にて：静安区にある名刹、静安寺。その創建は三国志で知られた「呉」の時代に遡る(AD247)という。門前の歩道ではストリートミュージシャンがサキソフオンを軽快に演奏し、通行人が暫し足を止めていた。足元にはスピーカーと投げ銭を受けるためのカバンが置かれていた。(上海市静安区 2017年4月 撮影：吉光 清)

'わんりい' 2022年3月号の目次は20ページにあります

昔、^{ようこう}葉公というとても竜の好きな人がいました。彼は部屋の梁や門に竜の彫刻を彫り、自慢していました。

ある日、天界に住んでいる本当の竜がこのことを知り、葉公に会いに行きました。その日、葉公は家において竜の画を描いて楽しんでいました。その時、突然窓から竜の頭がヌーと入って来ました。

葉公は、本物の竜に会えるなんて夢にも思っていなかったもので、全身がぶるぶる震え、わあ〜と大声をあげると、風のように姿をくらましてしまいました。竜は怪訝そうに言いました：「あんたはず〜と私のことが好きだったんじゃないのかね！竜が好きだという話は嘘だったのか！」

・ > > > > > > > > > > > > > > > > > > > > > > > >

言葉の意味：言葉では「好きだ」

と言っても、実際はそれほどでもない、或いは却って恐れていることさえある。口先だけで「好きだ」ということ。

使い方：学校の勉強で好きな科目があれば、深く勉強しなければいけない、「葉公好竜」のように口先で言うだけではいけない。

・ > > > > > > > > > > > > > > > > > > > > > > > >

このお話は、紀元前の中国戦国時代、鄭の国の人、^{しんふがい}申不害の著作「申子」にあるお話だそうです。

申不害は鄭の役人だったのですが、鄭が韓に滅ぼされた後、韓の^{しょうこう}昭侯の下で宰相として能力を發揮しました。韓は戦国時代の弱小国でしたが、彼の在任中は国情が安定し、周りから脅かされることが無かったと伝えられています。

彼は思想家としては^{かんびし}韓非子と同じ法家に属するといわれますが、その考えの基礎は、伝説上の帝王、^{こうてい}黄帝から^{ろうし}老子に繋がる思想、即ち「人の世は天道に外れぬ限り、何もしない方が良く治まる（**无为而治**）」にあり、昭王には臣下たちに自分の考えを押し付けず、臣下にはどうしたら君主に重用されるかという策を授け、国内を良く治めたのです。



挿絵: 満柏画伯

一般的に、申不害は法家に分類されますが、史記では基本的な考え方から「黄老の思想」を汲んでおり、道家の考え方を取り入れていると評しているようです。しかし、単純に考えて、「無為」と言いながら「策を授ける」というのには矛盾があるように感じます。どうやら、「天道に外れぬ限り」という条件で、「天道」に基準を置く処から、「黄老に基づく刑名（法律）の学問」と称さ

れているのだらうと理解しました。

果たして、彼が昭君に示唆した、「君主は自分の好悪や意図を臣下に覺らせず、臣下の自主的行為を促して、国を統御すべき」という策を体系化し発展させたのが韓非子の法家思想だそうで、一般論として、申不害を、^{しょうおう}商鞅と共に法家に数える根拠もここにあります。諸子百家と言っても、なかなか一筋縄ではいかないものなのですね。

ところでこのお話は何を教えているのでしょうか。筆者の独断と偏見で解釈すれば、『龍が好きだ』と公言するからには、本物の竜が現れた時、慌てて逃げ出すようではいけない。恐ろしい事実も、しっかり受け入れられなければ、本当に好きだということにはならない」ということでしょうか。

求愛の歌『木瓜』(『詩経』より)

桜美林大学名誉教授 植田渥雄

今回は中国最古の詩集『詩経』の中から求愛の歌を一首取りあげてみました。

[原詩]

mù guā
木 瓜
shī jīng wèi fēng
詩 經 衛 風

tóu wǒ yǐ mù guā bào zhī yǐ qióng jū
投 我 以 木 瓜 報 之 以 瓊 琚
fěi bào yě yǒng yǐ wéi hǎo yě
匪 報 也 永 以 為 好 也
tóu wǒ yǐ mù táo bào zhī yǐ qióng yáo
投 我 以 木 桃 報 之 以 瓊 瑤
fěi bào yě yǒng yǐ wéi hǎo yě
匪 報 也 永 以 為 好 也
tóu wǒ yǐ mù lì bào zhī yǐ qióng jiǔ
投 我 以 木 李 報 之 以 瓊 玖
fěi bào yě yǒng yǐ wéi hǎo yě
匪 報 也 永 以 為 好 也

[訓読]

ぼく か
木 瓜
し きょう えい ふう
詩 経 衛 風

我に投ずるに木瓜^{ぼく か}を以てす
報ゆるに匪^{あら}ざるなり
永^{よしみ}く以て好^なを為さん
我に投ずるに木桃^{ぼく とう}を以てす
之に報ゆるに瓊瑤^{けい よう}を以てす
報ゆるに匪^{あら}ざるなり
永^{よしみ}く以て好^なを為さん
我に投ずるに木李^{ぼく り}を以てす
之に報ゆるに瓊玖^{けいきゅう}を以てす
報ゆるに匪^{あら}ざるなり
永^{よしみ}く以て好^なを為さん

*衛風=衛の国のお国ぶりを歌った古代民謡。『詩経』十五国風の一つ。*木瓜=ボケの実。バラ科の野生植物。ここでは質素な贈り物を表わす。*投=与える。または受ける。「投桃报李」は贈答行為を表わす四字熟語として今でも使われる。*瓊(琼)琚=男子が腰につける玉製の飾り物。高価な贈り物を表わす。*木桃、木李=木瓜と同様バラ科の野生植物で、何れも質素な贈り物を表わす。*瓊瑤、瓊玖=瓊瑤に同じ。何れも高価な贈り物を表わす。*匪=非に同じ。あらず。*好=よしみ。仲良くすること。

[和訳]

君がくれた木瓜^{ぼけ}の实の
お礼^{たまかざ}にあげようこの玉飾り
お礼じゃないよ何時までも
仲良くしたい印だよ
君がくれた木桃^{ぼく とう}の
お礼^{おびかざ}にあげようこの帯飾り
お礼じゃないよ何時までも
仲良くしたい印だよ
君がくれた木李^{ぼく り}の实
お礼^{こしかざ}にあげようこの腰飾り
お礼じゃないよ何時までも
仲良くしたい印だよ

一人の貧しい女の子が、密かに心を寄せていた裕福な男の子に、自分で採取した木の实をそっと差し出します。それを受け取った男の子はお礼にと言っ、大切にしていた玉の帯飾りを女の子に手渡します。でも「木」と「瓊(琼)」、この対照的な二文字が示すように、お礼としてはどう見ても釣り合いませぬ。そこで

「お礼じゃないよ。何時までも仲良くしたい印だよ」

とささやく。これは古代中国の人々が理想として描いた求愛のスタイルだったのでしょか。

杜甫『望岳』

報告:花岡風子

今月は杜甫『望岳』でした。杜甫と言えば、これまで少なからずの作品を鑑賞してきました。杜甫は名家の生まれで、祖父杜審言と しんげんは則天武后の時代に宮廷詩人として鳴らした人物です。また遠い先祖には西晋の儒学者で武将としても名高い杜預とよがいます。このように名家の出身で詩才に恵まれた杜甫は14歳にして洛陽の社交界にデビューし、一流の名士たちと酒を酌み交わしては即興で詩を吟じていたそうです。

若かりし頃に2000首程作ったと言われていますが、現存しているのは、30歳以降の作品ばかりで、二十代の作品で唯一残っているのがこの貴重な一首だそうです。この作品は24歳で科擧の試験に失敗した後、齊魯(今の山東省)の地を旅した時に作ったものとされています。成立年については異説もありますが、30歳以前のものであることは間違いないようです。

「若い頃の作品は、恐らく杜甫自身が残すに足らずとして抹殺したんでしょうね。これは青年杜甫の一面を覗きみることのできる貴重な作品です」と植田先生。また、杜甫の作品、特に律詩は平仄がきちんと整っているイメージがありま

すが、この作品は律詩としては破格です。まだこの時代には一般に律詩の詩形が完成されていなかったのかもしれませんが。

では、内容を見てみましょう。

wàng yuè
望 岳dù fǔ
杜 甫

dài	zōng	fū	rú	hé
岱	宗	夫	如	何
qí	lǔ	qīng	wèi	liǎo
齊	魯	青	未	了
zào	huà	zhōng	shén	xiù
造	化	鐘	神	秀
yīn	yáng	gē	hūn	xiǎo
陰	陽	割	昏	曉
dàng	xiōng	shēng	céng	yún
蕩	胸	生	曾	雲
jué	zì	rù	guī	niǎo
決	眦	入	歸	鳥
huì	dāng	líng	jué	dǐng
會	當	凌	絕	頂
yī	lǎn	zhòng	shān	xiǎo
一	覽	衆	山	小

dài zōng fū rú hé
岱宗夫れ如何qí lǔ qīng wèi liǎo
齊魯青未だ了きず

泰山 (百度百科より)

「望岳」の「岳」も「岱宗」も泰山のことを指しています。泰山とはそもそも如何なるものでしょうか。「齊」と「魯」はかつて山東省にあった二つの国の名前で、「青未だ了きず」とは、限りなく緑が続いているということです。今では半ば禿山になっている泰山も昔はまるで密林

のように鬱蒼とした緑に覆われていたことが分かります。

また泰山は、今でこそ中国有数の観光スポットとして内外から多くの観光客を集めています。当時においては、伝説上の聖天子をはじめ歴代の著名な皇帝によって天地の神をまつる儀式「封禪の儀」が執り行なわれた、神聖な山でもありました。玄宗が封禪の儀を行ったのは開元13年(725)のことでした。これは奇しくも杜甫が洛陽で社交界に出入りし始めた年と重なります。それだけに、この山を見上げる若年の杜甫には格別の感慨があったと思われます。

しんしゅう あつ
造化神秀を鐘め、
こんぎょう わか
陰陽昏暁を割つ

神の仕業とも言うべき美しさを一点に集め、山の一方は明るく、もう一方は暗く、明け方と夕方のように陰陽が見事に分かれています。泰山のスケールの大きさが伝わってきます。

おど そう うんしゅう
胸を盪せば曾雲生じ、
まなじり きちよう
眦を決すれば帰鳥入る

胸を躍らせながら周りを見渡せば、雲が層を為してもくもくと湧いている。大きく目を見開けば、ねぐらに帰っていく鳥の姿が視界に入る。

かなら まさ
会ず当に絶頂を凌ぎ、
しゅうざん
衆山の小なるを一覧すべし

必ず自分も泰山の頂を乗り越えて、まわりの小山どもを見渡してみせるぞ。「絶頂を凌ぐ」とは、将来一流の人物になるぞという、若き日の杜甫の意気込みをストレートに表現しています。

後世に残る杜甫の詩と比べるとなんととも勇ましい内容ですね。試験に落第した後とはいえ、愁いのかけらも見当たりません。

杜甫は玄宗皇帝の側近になって、玄宗皇帝をいにしえ古の聖君子堯舜ぎょうしゆんに勝る皇帝に仕立て上げ、儒教による理想社会を実現しようという大きな野望を抱いて上京したのですが、不運にも杜甫が上京した頃は、玄宗皇帝の治世は下り坂にありました。玄宗をはじめ各界の名士に詩を送り仕官の道を求めましたが悉く成功しませんでした。困窮の果てに家族を妻の実家に預け、悪戦苦闘の日が続きます。また玄宗自ら発案した科挙の補充試験にも応募しましたが、側近たちの妨害に遭い全員不合格となり、これも失敗に終わりました。それでもなお、杜甫は仕官を目指し、自分の才能を詩に書いてアピールし続けましたが、希望をかなえることはなかなかできません。幸い玄宗に捧げた『三大礼賦』の文章が玄宗の眼に止まり、集賢院待制の称号を得ますが、仕官への道は開けませんでした。

結局、時代は杜甫の理想主義とは裏腹の方向に展開していきました。やっとのことで下級官吏の仕事を得て、どうにか飢えを凌ぐことができましたが、その時起ったのが「安祿山の乱」です。杜甫は長安城内に幽閉され、またも家族と離ればなれになります。「国破れて山河あり」という一句で有名な『春望』が書かれたのはまさにこの時期です。

この頃書かれた作品からは、混乱した時代と真摯に向き合い、ひたすら生真面目に生き抜いた杜甫の姿を読み取ることができますが、今回取りあげられた『望岳』から見えるのは、あまりにも初々しいロマンチストの姿でした。

河南省をめぐる友好提携都市(つづき)

文と写真=村上直樹

昨年7月、河南省は特大豪雨に見舞われ、この「雑感」でもその事情に触れない訳にはいかなかった(10月号)。その実態を明らかにするため国務院に「河南鄭州『7・20』特大暴雨災害調査組」が設置されたが、このグループによる調査結果が『河南鄭州「7・20」特大暴雨災害調査報告』として去る1月21日に公表された(46ページに亘る全文は中国応急管理部のホームページからダウンロードできる)。

この『報告』では、冒頭であらためて、2021年7月17日から23日にかけて河南省は歴史上稀に見る特大豪雨により甚大な洪水被害が発生し、とりわけ7月20日には鄭州市で多くの死傷者を出し、多大な経済的損失をもたらした、と記されている。全省で死者行方不明者は398人であり、その内、鄭州市では380人を数える。全省の150県(市、区)で1478.6万人が被災し、直接の経済的損失は1200.6億元(約2.2兆円)に上ると推計されている。

とくに、被害を深刻化させた要因として政治的な責任を認め「総体的には『天災』であるが、具体的には『人災』である。」と述べている。また、今回の災害から得られた教訓として、都市建設が「重面子、軽里子」(外見を重視し、中身を軽視する)となっていたことを指摘している。この「重面子、軽里子」という表現は、以前から用いられているが、今回の鄭州市地下鉄5号線の水没被害について、まさに、地上(表面)を重視し、地下の安全性を軽視していたことの問題を意味している。

さて、ここからは標題どおり前回(1月号)に引き続いて河南省と日本の友好都市関係を話題にしたい。1月号では後半で一般財団法人・自治体国際化協会(Council of Local Authorities for International Relations: CLAIR、クレア)のホームページにある情報を基に、河南省と日本の友好提携都市のリストを示した。同協会の北京事務所は『日中の友好都市交流の現状と課題』と題するレポートを公表している(CLAIR REPORT, No.486[September, 18, 2019])。このレポートは70ページに及ぶ、かなり大部なもので、日中間の友好都市交流についてさまざまな角度から記述されている。

そもそも友好都市提携とはどのようなものを指すのか、同レポートでは次の3つの条件を示している(同レポート、2頁)。①両首長による提携書があること。②交流分野が特定のものに限定されていないこと。③交流するに当たって、何らかの予算措置が必要になるものと考えられることから、議会の承認を得ていること。1月号の「雑感」では、この定義に基づいて、日本の地方自治体と中国・河南省の地方政府との間の友好都市関係を整理したことになる。

都市間の友好関係提携という点、その契機・きっかけはどのようなものであったのかが興味深い。同レポートでは、表にあるような9つのケースをあげている。その上で、それぞれの例として、孫平化中日友好協会秘書長(当時)の紹介による千葉県柏市と河北省承德市の提携関係(②のケース)、寧波市(浙江省)にある天童寺で大本山永平寺の開祖・道元が修業をした史実等に基づく、福井県と浙江省の提携関係(③のケース)、東京都と北京市が友好都市であることから、目黒区などが北京市の属する区と友好都市関係にあるケース⑦などが、挙げられている。

以下では、同レポートの分類を参考に、河南省と日本の間の友好都市提携のきっかけがどのケースに当たったのかを見ることにしたい。なお、クレアのホームページには、「提携情報」の中に、日本側都市の関係部署によって執筆されたと思われる「提携の動機及び経過」が載せられており、以下でも、まずその記述を参照する。ただし、それは都市によって分量・内容もまちまちであり、関連情報で補う必要がある。

表 友好都市提携の契機

- | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ①都市への訪問または受入れがきっかけとなったもの。 ②行政機関や交流団体、有力者等の紹介によるもの。 ③歴史的なつながりによるもの。 ④市民交流によるもの。 ⑤都市の類似点等を調査のうえ、交流を打診したもの。 ⑥地元企業の中国の地方都市への進出が縁となったもの。 ⑦都道府県と省級地方政府の提携が縁となったもの。 ⑧学校交流が縁となったもの。 ⑨その他 |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(一財)自治体国際化協会・北京事務所『日中の友好都市交流の現状と課題』CLAIR REPORT, No.486(September 18, 2019), 5頁より(一部抜粋)。

まず、河南省と三重県の関係については、クレアの記述によると、1970年代後半から、三重県が技術研修生の受け入れ、県民訪中使節団の派遣等を含めて中国全体との関係を深めていた。その中で、いずれかの省と正式な提携関係を結ぶ機運が高まり、最終的に江蘇省と河南省から後者が選択されたと書かれている。河南省が選ばれた動機については三重県の県庁所在地・津市と河南省の省都・鄭州市の位置がほぼ北緯35度で同じであり、気候・風土が似ていることが挙げられている。

さらに調べてみると、『人民中国』(2018年12月29日)における鈴木英敬・三重県知事(当時)に対するインタビュー記事の中で、鈴木知事は1986年に三重県が河南省と友好都市提携を結ぶことを決定した理由として、緯度がほぼ同じであることに加えて、当時の田川亮三知事が農林水産省出身で、農業に詳しく、小麦などを多く生産する河南省の農業に注目したためと聞いている、と語っている。河南省が農業大省であることは、昨年6月号の「雑感」でも触れたとおりである。クレアの記述によると、河南省側からも調査団が来訪しているの、契機の分類では⑤に当たると思う。

つづいて、岩手県北上市と河南省三門峡市の友好都市関係である。クレアの記述は多くないが、1978年に北上市日中友好協会が発足して以来、同市が中国との交流を重ねる中で、1985年5月25日に三門峡市との正式関係が締結されたとある。なぜ、三門峡市なの

かについては不明であるが、契機の分類としては②に当てはまるであろう。

念のため『河南日報』も確認してみたが、1985年5月26日付の第1面に、友好関係締結の記事はあるものの、その契機についての紹介はなかった。いずれにしても、提携時期が1985年と比較的早いこと、北上市、三門峡市とも(おそらく)それぞれの国内においても知名度が高くないことなどから、何か具体的なきっかけがあったのではないかと推測される。

私はまだ三門峡市を訪れたことはないが、白鳥の飛来で有名な「天鵝湖城市湿地公園」にはぜひ一度行ってみたいと思っている。白鳥飛来地という点では、北上市の「新堤」は岩手県内随一の飛来地だそうなので、もしかすると白鳥が縁を運んで来たのかもしれない(あるサイトによると「新堤」は「間近で白鳥を見ることができる東北地方の飛来地7選」の1つに挙げられていた)。

3番目は宮城県大崎市と鄭州市金水区の関係である。これは、日本側が市レベル、中国側が市の下の区レベルの組み合わせであり、やや不思議に思ったが、クレアのホームページには次のような事情が記されていた。現在の大崎市は、2006年3月31日に1市・6町が合併して誕生した新しい市で、鄭州市金水区と1994年に友好都市提携を結んだのは6町の1つ旧鹿島台町であった。

この提携の契機となったのは、日本政府(内閣府)が実施する青年国際交流事業の1つ「青年の船」(現在の「世界青年の船」)である。1990年当時、鹿島台青年の船友の会のメンバーが中国各地の視察を行い、河南省鄭州市が提携都市として選ばれたそうであるから、契機の分類では①となるであろう。

さらにクレアの記述によると、金水区が含まれる鄭州市を提携相手とした理由として、黄河が流れる同地が昔から水害に悩まされ、水との戦いが歴史に残されており、それが鹿島台町と似ている点を挙げている。それ以上具体的なことは書かれていないが、鄭州市については、夏の禹王による治水の歴史が含まれているはずである。一方、鹿島台町については、締結時の少し前に起こった1986年8月の台風10号による宮城県の豪雨災害が念頭にあったはずである。この時、鹿島台町では吉田川の堤防が決壊し、甚大な被害が発生した(宮城県HP『みやぎ水害記録集』[昭和61年8月洪水(台風10号)])。(続く)



『河南日報』(1985年5月26日)より

中国の面白い神話物語・伝奇物語(12) — 離魂記 —

顧 傑

今年の冬は寒さが厳しかったです、そろそろ春風が吹いてくる頃ですね。

さて、今回は唐伝奇小説の中から「離魂記」のお話をしたいと思います。

※※※※※※

漢代から唐代に、華北省南部から山東省北西部に置かれた清河郡に、名家の清河張氏が存在した。

女帝・武則天が統治していた頃のこと、清河張氏の中に張鑑ちやうかんという人がいた。彼は役人として衡州こうしゅうに赴任して、その地で生活を始めた。張鑑は物静かで控えめな性格で、親友はすくなかった。息子はいなかった。娘を二人もうけたが、長女は幼いころ、既に病気で亡くなっていた。しかし、次女・倩娘せんじようは他に比べる者がいないほどの美しい娘に育っていた。張鑑の甥、王宙おうちゆうは子供のころから、聡明で優れた容貌の持ち主だった。張鑑はこの甥を非常に可愛がっており、ことある毎に「将来は倩娘を嫁にやろう」と言っていた。そして倩娘と王宙

と一緒に成長していく中で、お互いの心に愛情を育んでいったが、家族は誰も知らなかった。

暫くして、張鑑は、上役から倩娘に優秀な役人との縁談が持ち込まれると、常々王宙に言っていたことを忘れて、その縁談を承諾してしまった。

それを知った倩娘は、終日鬱々として何があっても喜ばなくなった。王宙は目に見えて痩せていった。表には出さなかったが、心の中には、怒りの感情が渦巻いていた。後日、王宙は京（長安）に仕事を探しに行くとの口実を設け、張の下を辞することにした。張は引き留めたが、王宙は聞かないので、旅費などを充分用意して、出発させた。

王宙は、張と別れて船に乗ってからは、もう周りを気にする必要がないので、思い切り悲しみの涙を流した。夕方までに、船は流れに乗って幾つもの山を越え、数千メートルも遠くへやって来た。

夜になって船を岸に留めた。王宙は倩娘のことを思い、悲しくて眠れなかった。すると、岸を走って来る足音が聞こえた。船から岸に上がって見ると、何と、そこには裸足の倩娘の姿があった。

王宙は喜びのあまり気も狂わんばかりだったが、急いで倩娘の手を取ると、なぜここにいるのかと尋ねた。倩娘は涙ながらに答えた：「あなたの私に対する愛情がどんなに深いか、夢の中で感じる事が出来ました。それなのに、父は私の気持ちを尋ねることもなく、他人に嫁がせようとしています。あなたの愛は海のように深く、いつまでも変わらないことを信じています。もしあなたが自殺したら私も生きていけないと思い、家族を捨ててあなたと一緒にいこうと決めました。」

倩娘の話聞いて、王宙は天にも昇る心地で喜び、直ぐに倩娘を船の中に招き入れ、夜明けを待たずに船をこぎ出し、目的地を蜀に変えて旅を続けた。

5年後、二人の間には二人の息子も生まれ平穩に暮らしていたが、この間、両親とは連絡を取っていなかった。倩娘はずっと両親のことを思いながら日を送っていた。

ある時、とうとうその思いを涙ながらに王宙に打ち明けた。「以前、私はあなたの愛情の深さを知って、その思いに応えようと、両親の下を飛び出して来ました。親孝行にもとる行為で、両親には何の恩返しもできず、心苦しく思いながら毎日を過ごしています、こんな状態では世間にも顔向けができません」。

倩娘の苦しい胸の内を聞いた王宙は、妻の気持ちを理解し、「そんな思いでいたとは知らなかった。すぐに故郷に戻ろう。これからはそんな苦しい思いをしなくていいように、両親の下へ帰ろう」と答え、直ちに準備して故郷に戻ることにした。

故郷に戻って、先ず王宙が一人で張鑑の家に行き、



「離魂記」 百度百科より

今までのことを詫びることにした。

王宙が張鑑に会って、今までの一切を話し始めると、張鑑は驚いて、王宙に言った。「倩娘は何年も寝込んでいるんだぞ。そんなことはあり得ない」。

王宙も驚いて言った。「いいえ、倩娘は私と一緒に船で帰って来たのです。もし信じられないと云うなら、船に来て倩娘と会ってください」

張鑑は家来に命じて船まで行って確認させると、果たして、そこには倩娘の姿があった。家来を見るとにっこりして、「両親はお元気ですか？」と訊いてきた。家来は怖ろしくなって逃げ戻り、張鑑に報告した。

この時、張鑑の家で何年も病気で休んでいた倩娘は、この騒ぎを知ると起き出して、病気などなかったかのように元気にお化粧を始めたが、笑顔だけで何も話しはしなかった。そして部屋から出て、船から降りた倩娘と出会うと、すぐに融合して、独りの倩娘になったのだった。

この不思議な光景を目撃した張家の人々は、このことを秘密にし、ほんの何人かの人たちしかこのことは知らなかった。

さらに40年、王宙と倩娘夫婦が歿した後、息子たちは孝廉に推挙され、地方の役人になった。

※※※※※※※

離魂記の話は以上です。

今までに何回も、唐伝奇の中の恋愛話をさせていただきましたが、唐時代の婚約制度についても少しご説明したいと思います。

※※※※※※※

唐太宗が皇帝になった年、貞観元年（627年）に、政府が公布した布告に次のようなものがある。

「男は20歳、女は15歳を超えた場合、または伴侶を失ってから3年以上経過した場合、政府はその者に縁談の世話をしなければならない。省長、市長及び

それ以下の官員は、その働きにより速やかに縁談を進め、独身者数を減らし、人口を増やすよう努めなければならない。成果を挙げることが出来れば、官位は引き上げられる。逆に離婚を勧め、人口を減らしたものは、官位が下げられる」

また、唐代の社会では、

①原則的に家柄が釣り合っていることが最重要で、父母の命令、仲人の意見を尊重し、聴かなければならない。

②一夫一妻制。忠義、貞廉が美德とされる。

③役人は自らの官位に基づいて妾（愛人）を置くことが出来るが、妻と妾の立場を明確にしなければならない。

※※※※※※※

今回のお話、離魂記の場合、主人公である倩娘は、父母の言うことを聞かずに王宙と駆け落ちしましたが、これは忠貞の美德に反することになります。当時としては、社会から白い目で見られ、仕事

を失ったり、周りから軽蔑されたりすることになります。さらに張家に泥を塗る行為で、最悪、父である張鑑もまた職を失うことになったかもしれません。

5年も連絡を取らなかった倩娘が、父母に恩返しをするめ家に帰りたと思い、王宙が真っ先に張鑑の処へ謝罪に行ったのもこのためなのです。

しかし離魂記の中では、倩娘が二人に分離し、一人は王宙と結婚し、もう一人は（魂がないため）病気になって自宅に籠ったことで張家の面目を保ちました。

こうした理由があるからこそ、怪奇物語の形を借りて唐代の忠貞意識と、愛情の両方を大事にした物語が語られることになったのでしょう。

登場人物には誰も悪人はいない、十全十美（完璧）なハッピーエンドです。このような一点の汚れもない物語こそ、春にふさわしいのではないのでしょうか。



「離魂記」 百度百科より

「秦皇島」をご存知ですか？……(12)

文と写真 吉光 清

「旅先では、現地でしか食べられない料理を賞味し、特産の食材（野菜・果物を含む）を探し、地元のB級グルメを堪能すべし」をモットーとし、特に、食べたことのない食べ物に挑戦することに意欲を持つ筆者なので、秦皇島市に滞在中も鋭意、探索を行ったのは当然であった。

しかし、此の地域特有の料理や調理法を発見するところまではいかなかった。市内の中心部に住んでいるのは、仕事関係や住み易さを求めて他の地域から移って来た人々も多いようであった。中国各地の有名料理や家常菜は、市内を探せば食べられそうだったが、それにはあまり興味が湧かなかった。

宴会や会合で出される主な地元の食材は魚類、ワタリ蟹、シャコや赤ワインであった。調理法は魚ならせいり蒸しや唐揚げ、蟹やシャコは塩茹でして辛いタレで食べる方式である。勿論、いずれも新鮮で美味しかった。シャコの殻を外す際には尾の部分の殻が固いので、指に怪我をしないように気を付けた。

市中の飲食店でも、海辺の土地柄ゆえか、店先に水槽を置いて魚介類を泳がせ、客の注文に合わせて料理して提供する方式も多く見られた。

長距離バスで秦皇島にやって来た何回目かに、京哈高速道路から一般道に降りて間も無くの食堂街の中に「狗肉」という看板を掲げた店があることに気付いた。興味津々だったが、自分だけで行き着ける訳もなく、誰かに連れて行って貰う機会も作れず、挑戦は叶わなかった。

■「集发农业观光园」^{注)}のピラミッド

5路のバス路線で軍病院の先には「农业观光园」という施設があることを知ったので、日曜日を待って出掛けた。若い女性3人連れの後からバスを降りた。同じ目的地に思えたので、そのまま付いて行くと入り口があり、入園料32元を支払って入園した。単なる観光農園にしては高い料金と思った。敷地が広いせいか、時季外れのせいか、比較的閑散としていた。

案内板を見て、敷地の奥の方には遊園地もある複合的な施設であることや、「四つ星」が認められた景区であることが分かったが、「山海関」のような歴史



「玉米广场」のピラミッド(2016年10月撮影)

的な意義のある遺跡でもないのにと、ちょっと意外な感じがした。

とりあえず敷地内を北に進んだら広場に出た。陽射しの中に黄色のピラミッド状の建造物と樹木の根元が黄色に装飾されていたが、近寄って見ると、それらは本物のトウモロコシで作られているのが分かった。いったい、どれぐらいの本数で作られているのか？と圧倒されたが、数を確かめてみる気は起きなかった。表示は「玉米广场」だった。

■オーッと驚く長〜いヘチマ

農作物の実験的な栽培と大規模な生産を行う施設らしく、鉄骨造りで天井が透明になっている温室が長く連なっている一画から中に入った。

広々したスペースの中で、紫の花が鮮やかな、大きな鉢植えが3段に配置され、一方では、円柱の側面に



長いヘチマがぶら下がる「丝瓜長廊」(2016年10月撮影)

11段にわたって、小さな花卉の鉢植えが吊り下げられている光景が長く続いた。

野菜を栽培している棟では、大根らしい見慣れた葉っぱもあった。「集发自産南瓜」の標示とともに、遙か向こうまで、ヒョウタン形のカボチャがゴロゴロ陳列されていたのは壮観だった。その中央に、一抱えもある大きな南瓜が3個ばかり、これ見よがしに台座の上に置かれていた。とても重そうで一人で持ち上げることは無理と思われた。

熱帯産の植物や果樹栽培の棟では、屋内なのに通路脇に小さな池が作られて、金魚が泳いでいた。

温室棟を繋ぐ通路の天井が高くなった場所があり、その天井から地上近くまで、長いものだと、大人の身長3、4倍もあるヘチマがぶら下がっていた。見たことのない光景だった。標示には「丝瓜長廊」とあった。

■黙々と働いていた2頭のロバ

温室棟や農産物のコーナーを抜けて、古民具の展示コーナー、家具製品のコーナー、書の掛け軸の陳列コーナー、海産物のコーナーなどを通り過ぎた。

農園の歴史を説明する展示コーナーがあったが、これまでの目覚ましい活動成果や表彰の実績などの掲示と並んで、視察を受けたのであろう歴代の党主席の写真も飾られていた。

他の省にも「農業観光園」がある中で、此処の施設が「四つ星」であることが腑に落ちた気がした。北戴河の高級別荘地から「目と鼻の先」にある此処は、超大物が避暑がてら視察するにはもってこいで、幸便に高い格付けが得られたのではないだろうか。

人の気配が無い薄暗い一画に入ったら、貯蔵・熟成用の甕や樽が並んでいて、傍で2頭のロバが石臼の



黙々と石臼を回す2頭のロバ(2016年10月撮影)



大きな目と耳、白い髭

胴体、足、ピンと立つ尾

周りをグルグル回って粉を挽いたり、液体を搾ったりしていた。両者共に反時計回りに、180度ずれて同じような速度で回っているの、一周する度に対面するが、鳴き声も出さずに擦れ違っていた。

最後に、地元の工芸品や雑貨を売っているコーナーに立ち寄った。ユーモラスなマスコットが目止まった。身の丈8センチ程で、三角オムスビ形の大きな顔、大きな目と耳、白い髭を生やして尾をピンと立てた動物であった。家族への土産に購入した。

■さて、これは何者だ？

今回の原稿を此処まで書いてきて、件のマスコットは何処にあるのか気になり、「土産にあげた虎のようなマスコットはどうした？」と奥さんに訊いた。何のことか分からない様子だったので、いろいろ説明したら、「それならば此処かな」と言いながら抽斗の奥を探し始め、見つけ出して来て曰く、「貰った時から、虎とは思っていなかったけど」。

そこで、これは果たして何者なのかと検討が始まった。シッポと足と耳があるから獅子か虎だろう、額に「王」の字があるから百獣の王か？ 白い髭と目の上の太い眉毛は竜のようだ、虎ならば黄色の布で作り、縞模様を描くのでは？ 竜の子どもにしては体全体が丸過ぎ、爪も無い。竜と虎以外の、想像上の実在しない動物なのかも？

傍で聴いていた娘がスマホを出してサクサクと検索し、あっさり一件落着。「それは陝西省から中国全土に広がった、『布老虎』という民芸品らしいよ」。

「やはり『虎』だったのか、それならば今年寅年で丁度良い」という訳で、新年早々から、玄関の下駄箱の上に鎮座していただいた。(続く)

注) 改修・増築により、現在は「集发农业梦想王国」として、子どもが体験学習できる機能を大幅に強化して、大人も子どもも楽しめる施設にリニューアルしたようである。大人料金は値上がりして60元に。

3. 感染騒ぎと PCR 検査 (前号の 3.-①から続き)

②PCR 検査

2021 年 11 月中旬を過ぎ四姑娘山の封鎖が解けた頃に感染力が強い新型コロナウイルスオミクロン株の感染者が国内(四川省外)で確認された旨報道されました。そのためもあって、私は再度の地域封鎖に備えて生活資金を WeChatPay (微信 Pay) 口座に補給するため 11 月末にバスで成都へ戻りました。

話が少し戻りますが 10 月末に成都市で数 10 人の新型コロナウイルスデルタ株感染者が出て以降、四姑娘山が在る阿壩 (アバ) 州へ入る時に 48 時間以内の PCR 検査陰性証明が必要になっていましたので、12 月 3 日朝に四姑娘山へ戻るバス乗車券を買った後、スマートフォンで四川省医院に 12 月 1 日午後の PCR 検査を予約し料金 (60 元、1000 円位) を支払いました。

PCR 検査を受ける人には感染可能者が少なくない事と検査時の感染リスクを下げるため、検査は医院の中ではなく玄関脇の外に設けられたプレハブ棟で行われ、更に検査を受ける人はプレハブ棟に入らず外を移動してプレハブ棟に開けられた窓口で検査を受けます。当日は検査を受ける人が疎らで 20 位有るプレハブ棟の窓口の半分位だけ開いていて一人二人待っただけで検査を受けました。窓口の女医さんの衛生防備は厳重で、宇宙服にゴム手袋を 2 枚着けて外側 1 枚は検査が終わる毎に交換し、マスクと透明プラスチック板の面具を着けていました。私を検査する時は「外国人か！」と驚き緊張しましたが、同行していた家内が「外国に行っていない」と説明したので安心したようで、私のパスポート(新型コロナウイルスが流行り始めた 2020 年 2 月に更新して以降出国していない)の入出国記録を確認し、さらに症状有無を聞き取り

スマートフォンで健康碼・ワクチン接種記録を確認しました。それから一段高い所に上がって「あー」と言って私の口を大きく開けさせ喉の奥を見下ろしながら細い棒を入れて喉に触れた瞬間「アッ」言う間も無く喉粘膜を検体抽出して終わりました。

検査結果は実働 10 時間以内に出ると言われ、私の場合は翌日 14 時に出ました。当地の人の場合は健康碼 APP の画面に検査結果が表示されますが、外国人の私の場合は医院の報告書としてスマートフォンに陰性証明が表示されました(次ページ写真左)。その後 12 月 21 日にも PCR 検査を受ける羽目になりましたが、この時は料金が 40 元(700 円位)に値下がりしていました。

③二番目の感染騒ぎ

12 月 2 日に陰性証明が出た直後、懇意にしている四姑娘山のタクシー運転手から、小金県城市で新型コロナウイルスデルタ株の感染者が一人出て地域封鎖された知らせが入りました。そのため私は 12 月 3 日の四姑娘山行きを断念し、長距離バスも運行休止になって乗車券は全額払い戻されました。

この感染者は小金で仕事をしている建築業者で、11 月にデルタ株感染騒ぎがあった成都へ出掛けていた時に感染したようで^{注5)}、四姑娘山の封鎖が解けた後の 11 月末に小金県城市へ戻り数日後に発熱して感染確認されました。この時期、成都市から四姑娘山鎮経由で小金県城市へ入る場合は阿壩州境の映秀で 48 時間以内の PCR 検査陰性証明を掲示しなければなりません、その PCR 検査でチェック出来なかったのか、或いは PCR 検査せずに陰性証明が当時不要だった甘孜 (ガンツー) 州丹巴県を遠回りして小金県へ戻ったのかも知れません^{注6)}。小金県城市は 12 月 2 日から地域封鎖されましたが、幸い感染者は重症にならずに回復して他

の人にも感染せず、封鎖期間は2週間で終わって、成都との長距離バスも運行が再開されました。

この騒ぎのため私は四姑娘山行きを12月23日に延期しました。当日は何度もPCR検査陰性証明をチェックされました。茶店子公共車站^{注7)}の中に入る時は門前の係員に、バスに乗る時は運転手に、阿壩州境の映秀と四姑娘山に入る時はバスに乗り込んで来た防疫班に乗客全員がチェックされました。そして四姑娘山では、PCR検査陰性証明を持ってない人が摘発されました。摘発されたのは16～17歳の地元の少年で、バスが四姑娘山手前の臥龍で昼食休憩を取った時に乗り込んだようです。少年は防疫班の責任者らしい緊張した様子の中年の女医さんにバスの外へ連れ出され、管理不行き届きの運転手と一緒に道端に並んで立たされて激しい口調で叱られながら5分位事情聴取されまし

た。その後運転手はバスに戻りましたが、少年は検問所へ連れて行かれました。少年は親を呼ばれて四姑娘山の救急病院でPCR検査されるそうです。この防疫班の厳しい対応を頼もしく思い安心感を覚えました。同時に、少年がPCR検査で陽性になったらバスに同乗していた私を含む30人余りが濃厚接触者になる事に不安を覚えました。幸い少年は感染してなかったようで、その後1週間、防疫班から何も通知されず、12月31日に無事に成都へ戻れました。そして其の日の成都の循環バスの中で新型コロナウイルス対策特有の助け合いの光景を見て感激しました。小さな男の子がマスクをバスの床に落とし、母親がマスクを拾い上げ(バスの中ではマスクを掛けるルールですが替えマスクを持ってないので)困惑した目付きで埃を払って男の子の顔に掛けようとするのを、横に居た小父

报告详情			
检查项目	新型冠状病毒(SARS-CoV-2)核酸检测 (入院/复工/普通)		
就诊人	OKAWA KENZO		
检查时间	2021-12-01 19:20:26		
项目类型:	LIS		
检查项目	结果	参考范围	单位
新型冠状病毒ORF1ab基因	阴性(-) >38	阴性(-) >38	
新型冠状病毒N基因	阴性(-) >38	阴性(-) >38	
新型冠状病毒E基因	阴性(-) >37	阴性(-) >37	
送检医师:	邓小娟		
送检科室:	自助开单门诊		
检查医生:	刘鑫		
审核医生:	常凡		
检查医院:	四川省医学科学院·四川省人民医院		

陰性証明



行動確認 APP。

①は緑の交通信号の「進行」を意味すること

さんが見て「新しいのが有るよ」と言ってバッグの中からマスクを取り出し母親へ渡して男の子に掛けさせたのです。

4. 後書き [智能手机(スマホの中国名)雑感]

現在、智能手机は日常生活のために個人と不可分に出歩く時に必携です。社会経済活動が活発な若い人には智能手机が便利ですが、活動が限定される年寄には左程では有りません。“Man-machine interface (MMI)”の不統一も気になります。健康碼APPだけを使っている間はMMIが気になりませんが、他の色々なAPPを使い始めると、その不統一に戸惑います。特にAPPを使い進めて行っから元の所へ戻る“return”時の操作が一部のAPPで異なり、立ち往生して周囲に居る人に操作を頼んだり再起動して初期画面に戻して操作を遣り直す事が度々有ります。このような問題はどこの国でも、どんな電腦系統でも少なからず見られ、頻繁に使う若い人は平気ですが、偶に使うだけの私の様な年寄は辛く感じます。

情報保護の点からも不安が有ります。智能手机で微信 Pay を使っていると、自分の銀行口座番号を相手の智能手机へ誤って転送したりパスワードを覗き見られる事が必ず有ります。また小さいので智能手机その物を紛失・盗まれる事も有ります(パスワードを設定していますが完全堅固ではない)。そのため私は微信 Pay 専用の少額口座・パスワードを使ってリスクを下げています。

生活スタイルに依って適不適が異なりますが、TV 電話付きの WeChat も便利な場面が有るものの使う機会は極めて限られ、電話と同じで場所と時間に構わず掛けられたら困ります。その点、都合の良い時間にチェックしたり返事できる電子メールが私には重宝です。又、慣れに拠りますが、智能手机は画面が小さいので少ない情報を扱う分には構わないのですが、多くの情報を扱うには不便です。

私にとって智能手机は重くて嵩張り携帯不便で、スリが多いので雑にポケットに入れられず注意が必要で(私は携帯電話器を3回、家内はiPhoneを1回掏られています)、操作に苦勞し、落とすと簡単に壊れて高額の修理費が掛かる厄介な代物です。僅か数年前まで、電話で話すのと短信を受ける為だけに、小さく軽く操作が簡単な携帯電話器を便利さを実感しながら持ち歩けた時代を懐かしく思います。

■注釈

- 5) マスク・手洗い・嗽・三密回避等の順守は中々難しいようで、私が住んでいる成都の団地境界で歩いている人を見た限り、マスクは10人に一人位(主に年輩者お年寄)が着けていません。しかし市内循環バスや地下鉄の乗客はほぼ全員マスクを着けています。ただ市内循環バスでは、運転手が換気のために少し開けた窓を、乗客が寒いので閉めてしまう光景が多々見られます。
- 6) PCR検査は不要ですが、前篇で述べました行動確認APPと呼ばれる行程コード(行程碼)の綠色チェックは必要です(黄色や赤色ですと感染者との接触を疑われます)。2022年春節直前ですが、この行程碼が外国人の私の智能手机でも実現されましたので(前ページ写真右)、春節に甘孜州丹巴県へ移動した時に大変助かりました。この「行程碼」についても、1年前に使えるようになった「健康碼」と似たような経緯が有りました。外国人への電腦系統の対応は後回しになっていますので待っていたのですが、春節が近づいても私の智能手机で未だに「行程碼」を使えないため、1月21日に家内が成都市熱線(成都市直結の相談窓口)へ問い合わせた所、翌日午後から使えるようになりました。健康碼の時と同様、その迅速な対応ぶりに感嘆脱帽しました。
- 7) 茶店子公共車站では四川省外(当地の省は国並みの大きさですので)から来たバスの専用到着場を設けたり、構内に纏めた市内循環バス乗り場を閉鎖して周囲に広く散在する道路脇のバス停で乗るようにして感染リスクを下げる工夫をしていました。新型コロナウイルスへの諸々の対策の早さと実行力には、昨年以來、色々な場面で感心させられます。

前回(11月号)からの続きです。1992年に「小学館」から発行された、北京・商務印書館との共同編集による「中日辞典」にある、**日:中**という記号が付いた語を取り上げています。この記号は、漢字で対応する日本語がある場合、その意味・用法の違いを補充説明するというものです。中国語学習者にとって役に立ちそうなものをピックアップしています。

【感触gǎnchù】 感動. 感銘. 感慨. ^{shēnyǒugǎnchù de shuō} 深有感触地说 / 感慨深げに言う。

“感触”を日本語の「感触：かんじよく」の意味で用いることは少ない。「感触」は“**手感**”“**感觉**”などに相当する。^{shǒugǎn gǎnjué} **手感柔软的料子** / やわらかい感触の服地。^{shǒugǎnróuruǎn de liào zi} **经过一番交涉后你感觉怎么样?** / 交渉してみてもんな感触を得ましたか。

“感触”は、気持ちの高ぶりを伴う語なんですね。

【感情gǎnqíng】 1. 感情. 気持ち. ^{tā shì ge yì dònggǎnqíng} 他是个易动感情的人 / 彼は感情に左右されやすい人だ。2. **好感. 友情. 爱着. 感情破裂** / (男女が) 仲たがいをする。

“感情”は「感情：かんじょう」のほか、「愛情」の意味でも用いられ、人(異性・同性)でも物でも対象となる。^{tā duì tā hěnyǒugǎnqíng} **他对她很有感情** / 彼は彼女のことが好きだ。^{tā duì zhèxiànggōngzuòchǎnshēng le gǎnqíng} **这项工作产生了感情** / 彼はその仕事が好きになった。

^{yǒugǎnqíng} “**有感情**”は、手っ取り早く言えば「好きだ」ということですね。

【告白gàobái】 知らせ. 触れ. ビラ

普通、日本語の「告白：こくはく」の意味には用いない。「告白する」は以下のように表現する。^{tǎnbáiguòqù de zuìxíng} **坦白过去的罪行** / 過去の罪を告白する。^{tǔ lù ài qíng} **吐露爱情** / 愛情を告白する。

「告白」は「愛の告白・罪の告白」のように、他人には言うまいと隠していたことを打ち明けるという緊張感を伴う語ですが、「告白」には緊張感はないようです。

【工场gōngchǎng】 作業場。

“**工場**”は主に手工業を行う場所をさし、工業生産を行う「**工場：こうじょう**」は“**工厂**”を用いることが多い。^{gōngchǎngshǒugōng yè} **工场手工业** / 工場制手工業。

ちなみに“**工厂**”は「工場」の意で、^{tiě gōngchǎng} **铁工厂** / 鉄工所。“**工場**”も“**工厂**”も同じ音ですが、形態や規模に応じて、漢字を使い分けるということですね。日本語の「工場」は、「こうじょう」のほかに「こうば」と読むこともあります。「こうば」は新明解国語辞典によれば、「こうじょう」の一時代前の表現、やや小規模のものを指すことが多い…とあります。

【故乡gùxiāng】 故郷. ふるさと. 郷里. ^{huáiniàn gùxiāng} 怀念故乡 / ふるさとを懐かしむ。^{shí gé èr shí nián chóng fǎn gù xiāng} **时隔二十年, 重返故乡** / 20年ぶりで郷里に戻ってきた。

“**故乡**”は親しみや愛情を込めた言い方であり、生まれた場所あるいは長期にわたり生活したところのある場所をさす。書面語として使われることが多い。口語で「**故乡：こきょう**」は“**老家**”をよく用いる。^{nǐ lǎo jiā zài nǎ r} **你老家在哪儿?** / あなたの故郷はどこですか。

“**老家**”の項に、おもしろい記述がありました。“**他回老家了**”は「彼は故郷へ帰った」ということですが、転じて「彼はあの世へ行った」ということにもなるそうです。

【故意gùyì】 故意に. わざと. ことさらに. ^{tā bú shì gùyì pèng nǐ de} 他不是故意碰你的, ^{nǐ bú yào guài tā} 你不要怪他 / 彼はわざと君にぶつかったんじゃないからとがめなさんな。^{gùyì diǎnàn} **故意刁难** / わざと難題を吹っかける。

“**故意**”は“**故意捣乱**”(故意にかく乱する)のように、日本語の「故意：こい」に対応させて使うことができるほか、「わざと…する」のようにややくだけた言い方にも用いることができる。また“**是故意的**”の形で、前の動作を故意にしたことを示す。^{shì gùyì de} **是故意的** / や ^{bié lǐ tā tā shì gùyì de} **别理他, 他是故意的** / や ^{duì bu qǐ wǒ bú shì gùyì de} **对不起, 我不是故意的** / すみません、わざとやったのじゃないのです。

【合同hétóng】 契約. ^{dìng le ge hé tóng} 订了个合同 / 契約を結んだ. ^{sī} 撕

huǐ hé tóng / 契約を破棄する. hé tóng yī yuàn / (機関・団体と契約を結んだ) 指定病院.

日本語の「合同：ごうどう」は“**联合**”を用いる. **联合举行运动会**/合同で運動会を開く. また、数学用語の「合同」は“**全等**”という.

同形異義語の一つです。日本語の「合同：ごうどう」は、幾何学で用いる「合同」を除けば、単一で用いることは少なく、「合同公演」や「合同で…する」のように言うことが多いですね。

【**合作hézuò**】協力(する). 提携(する). **技术合作/技術提携**. 谢谢您的合作/ご協力ありがとうございます.

“合作”は二人以上の人対等な立場で「協力して…する」ことであり、日本語の「合作：がっさく」より使用範囲が広い. **他俩合作得很好**/彼ら二人は協力関係がよい. また、“合作”はスポーツなどのチームワークの訳としても用いることができる. **他们团队合作得不太好**/彼らはチームワークがあまりよくない.

日本語の「合作」は、「日中合作映画」「この作品は彼との合作です」のような言い方に限られている気がします。

【**黑幕hēimù**】内幕. 秘密. 裏の事情. **揭穿黑幕**/内幕をすっぱ抜く.

日本語の「黒幕：くろまく（表立った動きは見せないが、実権を握っていて、陰でさしずしたりする人）」は“**幕后人**”“**幕后台**”“**后台**”などを用いる. **政界的幕后人**/政界の黒幕. **这次闹事的后台是他**/この騒動の黒幕は彼だ.

中国語の“黒幕”は人を指すのではなく、事物を指すのですね。

【**欢迎huānyíng**】歓迎(する). 喜んで受け入れる. **如果你愿陪我去, 我很欢迎**/もし君がいっしょに行ってくれるならたいへんありがたい. **这项措施深受大家欢迎**/この措置はたいへん受けがよい.

①人の来訪を歓迎する場合. **欢迎日本朋友来中国**/日本の友人が中国を訪問されることを歓迎する. **欢迎, 欢迎!**/①(相手がすでに来ている時)よくいらっしゃいました. ②(相手がまだ来ていない時)いらっしゃることを歓迎します. ②人の行動を歓迎する場合. **欢迎你们唱首歌**/歌を歌っていただけるな

ら大歓迎です. **欢迎, 欢迎!**/喜んで受け入れます.

③「…に歓迎される」は“**受…的欢迎**”という.

日本語の「歓迎：かんげい」と同じ意味を持つ語なので、ここに取り上げることないかと思いましたが、さまざまな場面での“**欢迎, 欢迎!**”が説明されているので、ちょっと紹介してみました。

【**黄色huángsè**】1. **黄色(の)**. 2. 腐敗した. 堕落した. 煽情的な. **黄色小说**/エロ小説. **黄色歌曲**/煽情的な歌謡曲、退廃的な歌.

中国語の“黄色”は赤みがかった茶色に近い色をさすこともある. 中国ではかつては皇帝専用の色として、一般の使用は制限されていた.

どうして“黄色”が皇帝専用の色になったかは、“黄”の項に説明されています. 昔の中国人は、自分たちが伝説上の帝王“**黄帝**”の子孫だと意識し、黄色には特別崇高な思いを寄せていた…とあります. しかし、現代中国語では、話しことばで、約束などがおじゃんになる・商店などがつぶれる・いやらしいなどのマイナスイメージの意味が載っています.

日本語の「黄色：きいろ」は、「黄色い声：普通より調子の高い声」、「くちばしが黄色い：年が若くて経験不足だ」などに用いられています.

今回はここまでしておきます. さて、「油断一秒、怪我一生」に続く日中同形語にまつわる笑い話です. これももう30年前くらいに聞いた話ですが、今でもネットに上がっています. 以下、『爆笑必至！漢字が生む日本人と中国人の誤解—香港』からの引用です.

ある日本企業のビジネスマンが中国に出張し、帰国前に中国側の担当者に手書きのメモを渡した. メモには「我上機嫌、每度有難」と書かれていたという. 中国側の対応に機嫌を良くし、毎度ありがとうと伝えたつもりだったが、中国の担当者は全然違う意味に捉えていた. 中国の担当者は「上機嫌」を「上機」と「嫌」に分けて考えた. 空港でお別れということもあり、「上機」を「飛行機に乗る」と、「有難」は「毎度、難有り」と誤解した. つまり、「飛行機に乗るのは嫌だ、毎回トラブルに巻き込まれる」という意味に捉えたのだ. その後通訳により誤解は解けたが、気まづかったという.

誤解が生んだ名作

和田 宏

唐の時代に、ある有名な政治家であり、詩人がいました。玄宗皇帝に気に入られ、多くの要職を歴任し、詩作が現在に伝えられています。この歴史上の人物は、晁衡（ちょうこう）と言い、彼の日本名は、皆さんがご存知の“阿倍仲麻呂”です。唐の詩人・李白と彼の間には大きな誤解がありました。しかし、この誤解は感動的な美談であるだけでなく、日中間の文化友好交流の歴史的エビデンスでもあります。

19歳の阿倍仲麻呂は、奈良時代始めの西暦717年、遣唐使の一人として中国に向かいました。長安に着き、中国風の名前の“晁衡”と名乗り、9年間の苦学を経て優秀な成績で科挙試験に合格し、進士になりました。晁衡は、唐王朝のブレーンとなって、ずっと朝廷で官吏を務めています。玄宗の脇に寄り添う楊貴妃とも言葉を交わしたかも知れません。

晁衡は詩文の才能に恵まれ、性格は豪快で、当時の文人名士と幅広く付き合い合いました。その中には著名な詩人である詩仙・李白や詩仏・王維などがいます。彼らはいつも一緒に酒を飲んで詩を作ったり贈ったりして、深い友情を結びました。

唐に入ってから36年余り、だんだん年を取って今や56歳になった晁衡は、望郷の思いが募り、奏書で日本への帰国を申し出て、許されました。

中国の仲間が浙江省寧波で開いてくれた送別会の席で、阿倍仲麻呂が月を見上げて詠んだとされる短歌です。

①♪天の原ふりさけ見れば春日なる

三笠の山に出でし月かも

仲麻呂は、“嗚呼一、そう言えば、中国の夜空に浮かぶこの月は、36年前、渡唐する私の送別の席で見上げた丸い月と同じだろうか？”と、奈良の春日神社の後方にある三笠山の上に上がった月を思い出したのでしょうか。短歌は、鎌倉時代の1235年に、藤原定家によって小倉百人一首7番目の歌として選ばれました。



小倉百人一首 阿倍仲麻呂

この和歌の意を五言絶句の漢詩にしたものもあります。

『望郷』：晁衡（阿倍仲麻呂）作

翹首望東天	翹首して東天を望み
神馳奈良邊	神は馳す奈良の邊
三笠山頂上	三笠 山頂の上に
想又皓月圓	想ふ又もや皓月

圓まどかならんと

ところが、この『望郷』の漢詩は、1979年に西安市の職員が西安の公園に碑を建てる時、和歌の意を汲んで漢詩に移したものだそうです。阿倍の仲麻呂が作ったものではありません。念の為。

753年、晁衡は帰国の途につき、4隻の船団を組んで日本へ向かいましたが、晁衡の乗った第一船は途中で大嵐に遭い、行方不明となってしまったのです。晁衡の消息は1年経っても無く海で遭難死したと伝えられました。この不幸な知らせを耳にした李白は、悲痛な思いで『哭晁卿衡』という追悼の七言絶句の名詩を書きました。

②『哭晁卿衡』：李白作

日本晁卿辞帝都 日本まどかの友人、晁衡は帝都
(長安)を出発した。

征帆一片繞蓬壺　小さな舟に乗り込み、蓬壺
（日本）へ向かったのだ。
明月不歸沈碧海　明月のように高潔なあの晁
衡は青々とした海に沈んでしまった！
白雲愁色滿蒼梧　愁いをたたえた白い雲が蒼
梧（客死）山に立ち込めている。

この②『哭晁卿衡』の詩では、李白は晁衡を真っ白な月にたとえ、彼の死は月が碧海に沈んで、天が悲しみ人が泣き、万里大空の白い雲は、瞬く間に暗くなり、一面の愁色と悲しみが天地を覆っているようだと、心友への切ない思いを表しました。しかし、この追悼詩は、大きな誤解の上に作られたのです。晁衡は死んではいませんでした。彼らの乗った船は風に吹かれて安南（ベトナム）沿岸に漂着。上陸後、原住民に襲われて170人以上が殺されましたが、晁衡ら十数人だけが幸い逃げることが出来ました。2年後にやっとまた長安に帰って来ました。晁衡は、引き続き安南節度使としてハノイ勤務をしたり、安史の乱、玄宗の退位の影響で長安から離れたりしましたが、官職を務め、770年、病気で亡くなりました。享年72。日本に戻りたいという仲麻呂の願いは、ついに叶いませんでしたが、彼は生涯で唐代の3人の皇帝に仕え、青春と知恵と半世紀有余の歳月を捧げたのであります。

ところで、753年日本に向かう船団のうち、第二船に乗っていた中国人の僧侶・鑑真は、日本に辿り着きました。鑑真は6回目の渡航でやっと来日できたのです。奈良市に唐招提寺を建立し、仏教を広めました。鑑真は晁衡と同じ船で出国する筈でしたが、唐の役人に出国を止められて一度は船を降りましたが諦めきれず、密かに第二船に乗って密出国したのでした。もし晁衡と同じ船に乗っていたら、鑑真の来日は実現しなかっただけでなく命を落としていたかもしれなかったのです。

話が逸れますが、鑑真が住職をしていた江蘇省揚州市にある大明寺の現在の住職・釈能脩さんと私は、2016年12月、厚木市で対面したことがあります。

西安の玄宗の離宮・興慶宮の公園にある1979年



揚州大明寺の住職・釈能脩さんと <2016・12>

に建てられた阿倍仲麻呂記念碑の両側には、
♪天の原ふりさけみれば春日なる

三笠の山に出でし月かも

の和歌と、漢詩『望郷』が刻んであります。

青松に囲まれた記念碑の前で、二人の偉大な詩人の不朽の名詩によって、人々は遣唐使の往来が育んだ日中両国の千年を超える友情の温かさに想いを馳せることが出来るでしょう。2022年は、日中国交正常化から50周年を迎えます。悠久な流れを持つ日中友好交流を受け継ぎ、互相学習、互相幫助のスローガンの下、切磋琢磨し、両国の新しい水平を切り拓いて行こうではありませんか！



興慶宮公園にある阿倍仲麻呂碑

「Book of changes」に思うこと

後藤 芳昭

「Book of changes」とは、「易経」の英訳です。

1. 「易経」とは何か？

中国の四書五経の一つです。

四書五経とは、儒教の大切な古典であり帝王学の書です。また、官吏登用試験である「科挙」にも必要な古典でした。五経とは、易経・書経・詩経・礼記・春秋で孔子以前に既に存在していたものです。五経の経は、物事の理です。

中でも、易経は、最もふるく、中国思想の源流とみなされています。

易経とは、占いの書ではないかと思われていますが、それ以上に「変化」の理を極めたものです。私たちは、易は、簡単・容易としか思いませんが、中国語では、ほかに「変わる、変える」という意味があります。人や社会、自然などすべて変わります(変易)。変化するのに一定不変の法則がある(不易)。しかし易しくて簡単(易簡)。どう簡単かという、素直に世の中や大自然を見ればすべてのものが教えてくれるというのです。

易経の創始者である伏羲は、狩猟に出かける人に、天気予報をして、符号(八卦と六十四卦)で知らしめたそうです。まさに生活上の救世主だったと思います。赤壁で東風を予報できた諸葛亮につながります。そして現代では、正確な気象予報が命を守ります。

易経は、上古の伏羲のあと、中古の周文王と周公親子、近古の孔子の手で完成されます。

ちなみに、孔子以降に生まれたものが四書です。四書とは、論語・孟子・大学・中庸です。四書とは、聖人が記したものです。

2. 「易経」は現代において役立つかどうか？

「我々は、時代の辺境を生きている」とアメリカの文学者・小説家フォークナーは語りました。確かに、今、日々、経験したことのない事態が生じてきています。

しかし、どの時代でも、いつも私たちは不測の

事態の中、生きてきたのではないのでしょうか？

中国の長い歴史の中でも、映画やドラマ、文学作品中に、「変化」のありよう(変易・不易・易簡)が見られます。

今の日本の社会状況の変化の時と兆しを個人レベルで観て、どう対処するか、易経はきっとヒントを教えてくれると思います。

これからも易経の世界を垣間見て、生きる智慧を探りたいと思っています。

最後に、アメリカのナチュラリストで作家のサイ・モンゴメリーの言葉を紹介します。

「学ぶ者の準備が整ったときに教師が現れる」

■初心者・初級者を対象とした

中国語発音公開講座

① 3月19日(土) 13:30~16:30

●中国民謡「草原情歌」

② 3月20日(日) 13:30~16:30

●スキット

③ 4月2日(土) 09:30~12:30

●挨拶用語

④ 4月3日(日) 13:30~16:30

●唐詩「春暁」

主催：練馬中文教室 090-3509-2021 (要予約)

会場：練馬区役所本庁舎19階(練馬駅徒歩7分)

講師：鈴木繁先生(元日中学院副院長)

参加費：各回1000円(学生200円)

*‘わんりい’会員は特別割引 500円

◇満柏画伯の漢訳俳句◇

春を呼び込んでくれた俳句 服部嵐雪の一句

梅一輪 一輪ほどの 暖かさ

hán méi huā kāi yī xiǎo duǒ
寒梅花开一小朵yī duǒ wēnqíngnuǎn xīn wō
一朵温情暖心窝

【わんりいの催し】

皆様のご参加を歓迎します

♪ ボイス・トレで日本語の歌を歌おう！

身体力を抜いて気持ちよく発声しよう！
声は健康のバロメーター!!

*動きやすい服装でご参加ください。

- 会場：まちだ中央公民館 美術工芸室
- 日時：3月 1日(火) 10:00~11:30
4月 26日(火) 10:00~11:30
- 講師：Emme [エメ] (歌手)
- 会費：1,500円 (講師謝礼・会場費)
- 定員：15名 (原則として)
- 申込：☎042-735-7187 (鈴木)

~~~~~

### \*\*\* 中国語で読む 漢詩の会 \*\*\*

漢詩で磨く中国語の発音！ 中国語のリズムで読んで漢詩のすばらしさを味わおう！

- 会場：まちだ中央公民館
- 日時：3月 20日(日) 10:00~11:30  
学習室 3・4  
4月 3日(日) 10:00~11:30  
視聴覚室
- 講師：植田渥雄先生  
桜美林大学名誉教授
- 会費：1,500円 (会場費・講師謝礼)
- 定員：20名 (原則として)
- 申込：☎090-1425-0472 (寺西)

Email:ukiuki65jpp@yahoo.co.jp

(有為楠)

### 2022年新年会は中止

2022年1月30日(日)に予定していた  
‘わんりい’の新年会は中止致しました。

### ■ 3月・4月定例会 代表宅

- ▼ 3月 10日(木) 13:45~
- ▼ 4月 7日(木) 13:45~

### ■ ‘わんりい’ 発送 三輪センター

- ▼ 3月号：3月 2日(水) 10:00~
- ▼ 4月号：3月 31日(木) 同上

### ☆☆ 編集後記 ☆☆

早いもので、2022年も2か月が過ぎ去りました。その間にも、新型コロナウイルスは少しずつ姿を変えながら、繰り返し人類に襲いかかって来ています。

昨年末に少し収まったかと、2022年新年会を予定しましたが、1月に入って急速に感染が広がり、大人数の開催が難しくなりました。「鍋を囲むシュアン・ヤンローなど、以ての外」という状況でした。それで新年会はやむなく中止と致しました。

コロナの蔓延が収まって、集会の規制がなくなったら、会員の皆さまの親睦会を開催したいと考えております。どんな形式にするかはこれから検討しますが、皆様とのお顔合わせが出来れば良いなあと思っています。

改めてご案内いたしますので、その時にはぜひご参加ください。

~~~~~

‘わんりい’は、新入会をいつでも歓迎します

年会費：1800円、入会金なし

郵便局振替口座：00180-5-134011 わんりい

10月以降の入会は、当年度会費1000円。

■ 問合せ：044-986-4195 (寺西)

‘わんりい’ 271号の主な目次

寺子屋：四字成語(50)葉公好竜	2
「日译诗词」(20)『詩経』より求愛の歌『木瓜』	3
「漢詩の会」だより (55)	4
「中原」雑感(19)河南省を回る友好提携都市	6
中国の面白い神話伝奇物語(12)	8
秦皇島をご存知ですか(12)	10
四川省だより (下)	12
「中日辞典」からの意外な発見 (9)	15
「誤解が生んだ名作」	17
みんなの広場	19
‘わんりい’の催し・お知らせ	20